



市議会9月定例会

行政報告

市議会9月定例会が8月29日に招集され、小畑市長が行政報告を行いました。その中から主なものの要旨をお知らせします。

市道有浦東台線の開通

平成13年度から整備を進めてきた市道有浦東台線は、秋田わか杉国体の開会に合わせ、一部2車線で暫定供用することとしました。

新たに供用を開始する区間は、大館十和田湖線（樹海ライン）交差点から鳳凰大橋を渡り、東台郵便局付近の新町長根山線交差点までの1389mで、9月20日10時30分から開通式を行い、17時から一般開放することとしています。

この道路は、大館西道路や国道103号南バイパスとネットワークを構築する幹線道路として、交通環境の改善に大いに貢献するものと期待しています。

雇用創出に向けた取り組み状況

本年6月のハローワーク大館管内の有効求人倍率は0・60倍で、前年同期と比較0・06ポイント上回っていますが、依然として低い状態です。

また、来年3月に市内の高校を卒業予定の生徒の動向は、就職希望者257人のうち県外就職希望者が135人と過半数を占め、今春以上の県外流出が懸念されています。このため、地元就職を推進する方策として、高校生と企業との交流を図る「ジュニアインターンシップ制度」を導入しました。これは、就職希望の高校生が地域企業での就業体験を行うことで、仕事意識を育むことや就職時のミスマッチを防ぐことを目指しているもので企業の協力を得ながら、各校での取り組み

みを推進しています。

さらに、国に提案していた地域雇用創造推進事業は、採択が内定しました。正式決定後、商品開発や販路拡大など、市場製品の振興を図るセミナーを開催するほか、接客、接遇の向上や語学の修得、創業の促進など、地域求職者の能力向上や雇用の創出のための事業を行っています。

企業誘致の取り組み状況

地元企業の戸田鉄工(株)が、餌釣本社工場敷地内に新たな工場棟を建設して、4月1日から操業を開始し、大館市工場等設置促進条例に基づく指定工場となりました。

また、ニプロ(株)大館工場では、人工腎臓透析機器の大幅増産に対応するため県営大館工業団地内の同社用地に第5工場を建設し、7月20日から操業を開始しました。操業開始時の新規雇用従業員数は49人で、平成21年度までに段階的に110人規模の雇用を見込んでいくと伺っています。

青森県平川市に本社を置く(株)ホクトは、本年6月に二井田工業団地内の既存工場を取得、11月操業開始に向け準備を進めています。操業開始時の新規雇用従業員数は30人を予定し、果物の冷凍食品を主力製品として製造することとしています。

農作物の生育状況

基幹作物である水稻は、最高気温が高めに推移したことから、障害不稔の発生

は少ないものと見込まれ、出穂が8月3日と平年より2日早く、登熟もおおむね良好に推移しています。また、農業総合指導センターやJAあきた北などの関係機関とともに病害虫の徹底防除を呼び掛けてきたところ、現在まで発生は報告はほとんどありません。

次に、戦略作物は、7月下旬までの少雨と高温乾燥により生育遅延や品質低下が見られましたが、病害虫の発生は平年に比べ少なくなっています。キュウリは不作であった昨年の2倍程度の収量となり、また、アスパラガス、ネギとも平年並みで、出荷も順調に伸びています。

特産の果樹は、ナシ、リンゴとも、果実肥大は「ほぼ平年並み」で、降雨不足や病害虫の影響も少ない状況であり、引き続き天候等に応じた管理を促したいと考えています。

地域農業担い手育成に

向けた取り組み状況

品目横断的経営安定対策の加入申請状況は、申請期限の7月2日時点で認定農業者206人、集落営農組織は15組織となっています。

このままでは、高齢化とともに、耕作放棄地の増加と農業の衰退は避けられない状況であり、一つの窓口で各種相談を受ける「ワンストップ支援窓口」や農業者や営農組織に指導や助言をする「担い手アクションサポートチーム」を設置して、基幹産業としての農業を守るという強い決意で必要な対策を講じたいと考えています。